

Title	匿名政治パンフレットの計量的分析 : 「レ枢機卿のマザリナード」の帰属検証
Author(s)	涌井, 萌子
Citation	言語文化共同研究プロジェクト. 2023, 2022, p. 41-58
Version Type	VoR
URL	https://doi.org/10.18910/91701
rights	
Note	

Osaka University Knowledge Archive : OUKA

<https://ir.library.osaka-u.ac.jp/>

Osaka University

匿名政治パンフレットの計量的分析

—「レ枢機卿のマザリナード」の帰属検証—

涌井萌子

大阪大学人文学研究科

〒560-0043 豊中市待兼山町 1-5

Email: u738173g@ecs.osaka-u.ac.jp

概要 本稿は、レ枢機卿のマザリナードについて、デジタルヒューマニティーズを用いて、帰属の検証を行うことを目的としている。17世紀フランスの匿名政治文書マザリナードは、虚偽虚飾が多く文体模写や偽称が認められるテキストであることから、帰属の確定には多くの困難がある。レ枢機卿の場合、その困難さは既刊の作品集・全集におけるマザリナードの収録数の違いに現れており、マザリナードの特徴だけでなく、編者の主観が介入する全集・作品集の性質も影響している。そのため、客観的かつ検証可能で再現性のある量的な観点から、デジタルヒューマニティーズの分析手法を用いて、帰属を検討する必要があると考えた。本研究では、レ枢機卿のマザリナードと考えられているテキストについて、クラスター分析および主成分分析を行い、帰属の再検証が必要なテキストの洗い出しと、それらのテキストに関して、質的な観点から帰属容認の可否を検証し、マザリナードを量的に分析する際の課題や問題点を提示する。

キーワード マザリナード, クラスター分析, 主成分分析, 著者推定

Quantitative Analysis of anonymous political pamphlets: The authorship verification of the mazarinades by Cardinal de Retz

Moeko WAKUI

Graduate School of Humanities, Osaka University

1-5 Machikaneyama-cho, Toyonaka, Osaka, 560-0043 Japan

Abstract This paper aims to verify the attribution of “mazarinade” of Cardinal de Retz by using digital humanities. The Mazarinade, an anonymous political document of 17th century France, is a text with many falsehoods, stylistic imitations and pseudonyms, which makes it difficult to determine the attribution. In the case of Cardinal Re, this difficulty is reflected in the difference in the number of Mazarinades included in existing collections and complete works, which is influenced not only by the characteristics of the Mazarinade but also by the nature of the collections and complete works in which the subjectivity of the editor intervenes. Therefore, it was considered necessary to examine the attributions from an objective, verifiable and reproducible quantitative perspective, using the analytical methods of Digital Humanities. In this study, cluster and principal component analyses are carried out on texts considered to be the work of Retz. It identifies texts whose attribution needs to be re-examined, examines the acceptability of attribution from a qualitative perspective with regard to these texts, and presents the issues and problems in analysing the Mazarinade quantitatively.

Keywords mazarinade, cluster analysis, PCA, authorship attribution

1. はじめに：マザリナードと著者推定

マザリナード mazarinade とは、フロンド La Fronde の時期に出回った大量の印刷物である。フランス史においては宗教戦争やフランス革命の時期にも印刷物が大量に出回ったが、短期間に集中して出版されたという点で、マザリナードは傑出している。

フロンドは、太陽王ルイ 14 世が成人する前の 1648 年から 1653 年に起こったフランス全土を巻き込んだ内戦である。乱は、三十年戦争が長引き、王権が軍事費をまかなうために増税を繰り返したことでフラストレーションが溜まっていたパリ市民が決起したことが直接的な原因として起こった。間接的な原因としては、ルイ 13 世とその宰相リシュリュー枢機卿以降、中央集権化や宮廷への権利集中が進んだのに対して、権力の監視者であり、宮廷の政策に意見することができたパリ高等法院や、血族であることによって恩恵を受けていた親王たちといった既得権益を持つ人々が、抵抗しようとしたことがある。これによってこの反乱は、増税に反対するパリ市民を中心とした市民レベルの小規模な暴動にとどまらず、パリ高等法院やコンデ親王、ラ・ロシュフコーなど王族や貴族を含む様々な政治家が参加し、宮廷、特に宰相マザラン枢機卿に反抗する政治闘争の性格を持つに至った。

マザリナードは「投石遊び fronder」を語源とするこのフロンドにおける「言葉の石」であるが、マザランに対してのみ投げられたのではなく、フロンドに関わる様々な党派に向かって投げられたものであった。対象や目的が多種多様であり、また攻撃を主眼とするために誹謗中傷や虚飾・潤色を多く含むこれらのテキスト群は、およそ 5600 種類がフランスを中心に現存する。

執筆者は、特にレ枢機卿 Jean François Paul de Gondi, Cardinal de Retz が執筆したと考えられているマザリナードに限定して研究を行っている。

1.1. レ枢機卿 Jean François Paul de Gondi, Cardinal de Retz について

レ枢機卿 Jean François Paul de Gondi, Cardinal de Retz (1613-1679) とは、聖職者、回想録作家である。最も有名な著作『メモワール』で活写しているように、フロンド La Fronde(1648-1653)に参加した政治家の一人であり、レは武力による戦いにおいても、現在「マザリナード」と呼称されるパンフレを用いた言論による戦いにおいても、積極的にこの内戦に参加した。レ枢機卿が論争家 polémiste であるという側面は特にミリアム・ティンビディ¹によって強調されており、その産物としての論争文書も多数現存している。

後ほど 2.2 で整理するが、レ枢機卿のマザリナードと考えられているテキストは、作品集・作品全集によってその数が様々である。これは、第一にレ枢機卿本人が「書いた」と言っていない場合でも、近い人物が書いているテキストであれば、レ枢機卿に帰属する可能性があること、第二にタイトルに「レ枢機卿が書いた」という文言が含まれていても、その文言が帰属の根拠として採

¹ Myriam Tsimbidy, *Le cardinal de Retz polémiste*, Université de Saint-Etienne, Renaissance et Age Classique, 2005.

用されるか否かは、当時のレ枢機卿を取り巻く政治情勢や、同時代人の証言に左右されることが影響している。また、この数の違いは、作者同定に大変困難があるマザリナードの性質だけでなく、ティンビディ (2019)²では「編者の主観が介入する」という全集・作品集の性質が生み出したものであると考えられている。

いずれにせよ、マザリナードが匿名文書であることが影響しており、テキストの帰属判明を難しくしている原因となっている。

1.2. マザリナードとデジタルヒューマニティーズについて

テキストの帰属判明を難しくしている原因がマザリナードにあるにせよ、全集・作品集にあるにせよ、根本にはマザリナードが匿名文書であることが影響している。そのため、ある作家のマザリナードを扱う場合、必ずテキストの内実に向ける前に、コーパス選択と根拠を明示する必要が生じる。質ではなく量の面から、マザリナードの帰属を再検討した例に、シラノ・ド・ベルジュラックの例がある。

シラノ・ド・ベルジュラック *Cyrano de Bergerac* は、エドモン・ロスタンの韻文戯曲『シラノ・ド・ベルジュラック』の元となった実在の剣術家であり作家である。彼もまた、レ枢機卿と同様に、フロンドの時代を生きた人物だが、レ枢機卿の場合はフロンドの参加者であり、自分の政治家としての立場のためにマザリナードを書いたのに対し、シラノの場合は純粋に政治的態度を示す目的で書いたとは考えられていない。彼の執筆動機には、経済的な理由も含まれていると考えられ、当時流行のマザリナードを書くことで金策を講じたのだとされている。

シラノのマザリナードの場合、マザリナードに書かれた頭文字DBとBDというイニシャルが、帰属を支持する内外の唯一とされていたが、その証拠の脆弱性を指摘したマドレーヌ・アルコベールが量的に帰属の再検討を行なっている。

アルコベール(2012)³では、因果関係の表現について、シラノの他作品と比較し、他作品の傾向とマザリナードの使用傾向が合致しないことから、アルコベールは「「事実に基づいた結論が、糾弾しようとした批評家の「確信」と衝突」している」ことを提示した。このことによって、それまで、シラノ・ド・ベルジュラックは7編のマザリナードを書いたと考えられていたが、その量的な検討と質的な再検討の結果、1編も書いていなかったと結論づけられている。

² Myriam Tsimbidy, « Création et fabrications des *Œuvres complètes* du cardinal de Retz », dans *Éditer les œuvres complètes (XVIIe et XVIIIe siècles)*, sous la direction de Philippe Desan et Anne Régent-Susini, Classiques Garnier, p. 333-347.

³ Madeleine Alcover, « Le *Cyrano de Bergerac* de Jacques Prévot », *Les Dossiers du Grihl* [En ligne], Les dossiers de Jean-Pierre Cavaillé, Libertinage, athéisme, irrégion. Essais et bibliographie, mis en ligne le 17 avril 2012. (<http://journals.openedition.org/dossiersgrihl/5079>)

2. 方法

2.1. 目的

クラスター分析・主成分分析を行い、レ枢機卿の作品として一括されている作品群の中で、レ枢機卿自身が帰属を明示している作品とその他とでどれほど距離があるのかを探るとともに、これまで全集・作品集編者が示してきた見解と異なる結果について質的に再評価を行うことで、レ枢機卿のマザリナードの範囲を量的観点・質的観点の双方から明らかにすることを旨とする。

2.2. 使用したコーパス

本研究では、レ枢機卿のマザリナード作品群を人文情報学的アプローチから再評価するという目的のため、レ枢機卿のマザリナードとされている 21 点の作品群のほか、比較対象として他作家のマザリナードを含めた 23 点のコーパスを用いた（表 1 及び表 3）。

レ枢機卿のコーパスについては、既刊の全集・作品集に収録されたすべてのものを対象とし、テキストはシャンプイオン社による最新版の全集（*Cardinal de Retz, Conjuración de Fiesque et Pamphlets, tome VII, Paris, Honoré Champion, 2011.*）を用いた。

表 1 レ枢機卿のコーパス（執筆年代順）

年代順	タイトル	表記
1	La vérité reconnue ou les intrigues de Saint-Germain	Doute1
2	La dérouté des cabalistes au jardin de Renard	Doute2
3	Apologie des Frondeurs	Doute3
4	Avis important et nécessaire à M. de Beaufort et à Monsieur le Coadjuteur	Doute4
5	Défense de l'ancienne et légitime Fronde	Retz1
6	Le Solitaire aux deux désintéressés	Coed1
7	Avis désintéressé sur la conduite de Monseigneur le Coadjuteur	Retz2
8	Discours libre et véritable sur la conduite de Monsieur le Prince et Monseigneur le Coadjuteur	Coed2
9	Réponse du curé à la lettre du marguillier sur la conduite de Monseigneur le Coadjuteur	Coed3
10	Lettre de Monsieur le Prince de Conty écrite au Roi sur son voyage en Berry	Doute5
11	Les Contre-temps du sieur de Chavigny, premier ministre de Monsieur le Prince	Retz3
12	Manifeste de Monseigneur le Duc de Beaufort, par lequel il déclare se joindre à Son Altesse Royale, au Parlement et à la ville de Paris	Doute6
13	Manifeste de Monseigneur le duc de Beaufort, général des armées de son Altesse Royale	Retz4
14	Les intrigues de la Paix et les négociations faites à la cour par les amis de Monsieur le Prince depuis sa retraite ne Guyenne jusques à présent	Coed4
15	Le vrai et le faux de Monsieur le Prince et de Monsieur le cardinal de Retz	Retz5
16	Intérêts du Temps	Retz6
17	Le Vraisemblable sur la conduite de Monseigneur le cardinal de Retz	Retz7
18	Suite véritable des Intrigues de la Paix et les négociations de Monsieur le Prince à la cour jusques à présent	Coed5
19	Avis aux malheureux	Coed6
20	Remarques sommaires sur la maison des Gondy, par le sieur Hozier, gentilhomme ordinaire de la Maison du Roi, généalogiste de sa Majesté et juge général des armes	Doute7

2.2.1. レ枢機卿が自分自身で執筆していることを言及しているコーパス

レ枢機卿が自分自身の信念によって執筆した7編のマザリナードは、現代のわれわれから最も想像しやすい「著者」としての関わり方である。政敵の文体を模写したテキストやこの関わり方によって数えられるマザリナードが7編あり、Retz1-7として分析に加えたこの7編に関して、異論を唱える編者はいない。

表 2 レ枢機卿のマザリナードと書き手

	GEF ⁴	Pléiade ⁵	Bibliographie ⁶	Champion ⁷
レ自身が書いた	7	7	7	7
党派の人間が書いた	6	1	1	6
関与が考えられる	×	×	×	8
収録数	13	8	8	21

2.2.2. レ枢機卿が党派の友人や雇った文士に書かせたことを言及しているコーパス

作品全集にはこの7編にさらに6編加えられているが、ここで含まれているのは、パトルやデュ・ポルテル、ギー・ジョリといったレの党派に属する友人あるいは雇われ文士たちによる作品である。

17世紀の文学場について『作家の誕生』を書いたアラン・ヴィアラ⁸によれば、正確に言えば「クリエンテリズム clientélisme⁹」という語を用いるのが適切である。パトロンとその援助を受け

⁴ Cardinal de Retz, *Œuvres*, dans *Les Grands Écrivains de la France*, direction de M. Ad. Renier, Nouvelle édition. rev. sur les autographes et sur les plus anciennes impressions et augmentée, tome V(Pamphlets), Paris, Hachette, 1880.

⁵ Cardinal de Retz, *Mémoires ; la conjuration du comte Jean-Louis de Fiesque, Pamphlets*, textes présentés et annotés par Maurice Allem et Edith Thomas, Paris, Gallimard, « Bibliothèque de la Pléiade », 1956.

⁶ Bertière, Simone. (2000). *Bibliographie des Écrivain Français ; Le Cardinal de Retz ; Bibliographie thématique des littératures francophones européennes*, 20, Memini, Paris-Roma.

⁷ Cardinal de Retz, *Conjuration de Fiesque et Pamphlets*, textes établis, avec introduction, notes, bibliographie, index des noms de personnes, index des noms de lieux, reproduction de manuscrits, illustrations, par Jacques Delon, tome VII, Paris, Honoré Champion, 2011.

⁸ Alain Viala, *Naissance de l'écrivain*, Paris, Éditions de Minuit, « Le sens commun », 1985, p. 51-57.

⁹ クリスチアン・ジュオー『マザリナード』（嶋中博章，野呂康訳，水声社，2012年。JOUHAUD

る著述家という意味でメセナと混同される「クリエンテリズモ」だが、メセナと比較してパトロンの介入度が高い、奉仕という社会的関係である。この「クリエンテリズモ」を結んだ書き手にもさまざま存在しており、モローが言及するところの「徒党に結びついた雇われ文士」と「信念も心的なきずなも持たない、雇われ文士」がいる。「クリエンテリズモ」はそもそも、中世における封建社会の性質を部分的に受け継いだものとされ、基本理念として忠義の精神があげられるが、その精神を持つのはもっぱら前者であり、後者のような文士は「クリエンテリズモ」を前にして悠々と二枚舌を用いることもあった。パトロンに雇われてパトロンの制限を受けた著述も存在した一方で、雇われていた方があっさりと凋落したパトロンを見捨て、「クリエンテリズモ」を渡り歩く例もあったことを、ヴィアラは紹介している。

パトルによる『大司教補殿の行動に関する教会管理人の手紙に対する主任司祭の返答』(Coed3)にはレ本人が加筆修正あるいは原案として関わった可能性も指摘されており¹⁰、同作品やギー・ジョリによる『ギュイエンヌ後退から現在に至るまで親王殿下の友人たちが宮廷で行った和平の陰謀と交渉』(Coed4)に関してはいくつかの断片がレ枢機卿のテキストと近似しているという指摘もある¹¹。ただ、レがどれほど手を入れればそれがレの作品になるのかという判断は難しい。

2.2.3. 作品集編者によってレ枢機卿が関連した可能性が示唆されているコーパス

ドロンによって編まれた最新の全集でこれほどまでにレ枢機卿のマザリナードの数が増えたのは、彼が同時代の証言を丁寧に拾い上げたからである。ドロンによるコーパス作成の方針はこのような書かれている。

コーパス作成にあたって、我々は当然、誤って彼に作者の資格が与えられ、後々本当の作者がわかったものを取り除き、同様に彼が自分の作家集団に着想を与えたが、遠くからしか参加しておらず、作品にするにあたっての気遣いを他に任せたままにしておいたものを取り除いた。反対に、彼に帰属させるのに正当性があると思われる幾つかの小冊子が見られた。それはその内容や形式の全体あるいは部分に対して、歴史的・文献的な観点からの確固たる根拠があった。(Cardinal de Retz, *Œuvres complètes*, *op.cit.*, tome VII, p. 350.)

ドロンは「遠くからde loin」の範囲に関して特に詳しくは言及していない。そのため、レ枢機

(Christian), *Mazarinades : la Fronde des mots*, Collection historique, Aubier, 2009. の訳本) ではこの語に「保護—被保護関係」という訳語を当てているのだが、その訳語であると「メセナ」にも通用してしまうので、ここではアラン・ヴィアラ『作家の誕生』(塩川徹也監訳, 藤原書店, 2005年.)での訳語を採用した。

¹⁰ Cardinal de Retz, *Mémoires ; la conjuration du comte Jean-Louis de Fiesque, Pamphlets*, *op.cit.*, « Bibliothèque de la Pléiade », p. 1181.

¹¹ シャンピオン全集における当該マザリナードについての解説参照 (*Œuvres complètes*, *op.cit.*, tome VII, p. 522 et 582.)

卿が「書かせたfaire écrire」としている作品についてはもちろんのこと、マザランなど同時代の人物による証言を根拠に、比較的広範に採用しているのである。

ドロンによる可能性の検証という大仕事は素晴らしい成果であるが、前述の通り「彼が書いた」という偽称も政治的戦略として通用する時代なのである。レ枢機卿自身、かなりの量のパンフレに目を通すよう心がけていたことは『メモワール』に明らかだが¹²、出回っていた全てに目を通すことができたわけではなく、ましてや自分のものと偽って出されたもの全てに「本当の véritable」という形容詞をつけて反駁していたわけでもない。このような複雑な状況である以上、同時代の証言をどこまで事実として採用するかということには慎重さが求められる。

2.2.4. サラザンのコーパス

レ枢機卿のコーパスの比較対象として、同等の知的階級の書き手ジャン＝フランソワ・サラザンJean François Sarasinによる、単著かつ単語数の適度な散文のマザリナードを“autre_”としてコーパスに入れる¹³。サラザンは元々レ枢機卿の従者だった、同世代の人物である。フロンド勃発後、レ枢機卿に敵対するコンデ親王やコンチ親王の秘書になり、マザリナードを書いた人物である。

表 3 使用したサラザンのコーパス

年代順	タイトル	表記
1	Le Frondeur bien intentionné aux faux-Frondeurs	autre_Sa1
2	Lettre d'un marguillier de Paris à son curé sur la conduite de Mgr le Coadjuteur	autre_Sa2

2.2.5. 使用コーパス

以上により、最終的な使用コーパスは表 4の通りである。

表 4 使用コーパスと語数

表記	タイトル	語数
autre_Sa1	Le Frondeur bien intentionné aux faux-Frondeurs	1532
autre_Sa2	Lettre d'un marguillier de Paris à son curé sur la conduite de Mgr le Coadjuteur	4209
Coed1	Le Solitaire aux deux désintéressés	5010
Coed2	Discours libre et véritable sur la conduite de Monsieur le Prince et Monseigneur le Coadjuteur	6359
Coed3	Réponse du curé à la lettre du marguillier sur la conduite de Monseigneur le Coadjuteur	8321
Coed4	Les intrigues de la Paix et les négociations faites à la cour par les amis de Monsieur le Prince depuis sa retraite ne Guyenne jusques à présent	2887
Coed5	Suite véritable des Intrigues de la Paix et les négociations de Monsieur le Prince à la cour jusques à présent	2141

¹² Cardinal de Retz, *Mémoires*, *op.cit.*, « Bibliothèque de la Pléiade », p. 624.

¹³ コーパスは以下の作品集を用いた。Jean-François Sarasin, *Oeuvres de J.-Fr. Sarasin*, rassemblées par Paul Festugière, Paris, É. Champion, 1926.

Coed6	Avis aux malheureux	1801
Doute1	La vérité reconnue ou les intrigues de Saint-Germain	1565
Doute2	La dérouté des cabalistes au jardin de Renard	1097
Doute3	Apologie des Frondeurs	2669
Doute4	Avis important et nécessaire à M. de Beaufort et à Monsieur le Coadjuteur	6286
Doute5	Lettre de Monsieur le Prince de Conty écrite au Roi sur son voyage en Berry	1289
Doute6	Manifeste de Monseigneur le Duc de Beaufort, par lequel il déclare se joindre à Son Altesse Royale, au Parlement et à la ville de Paris	3212
Doute7	Remarques sommaires sur la maison des Gondy, par le sieur Hozier, gentilhomme ordinaire de la Maison du Roi, généalogiste de sa Majesté et juge général des armes et des blasons de France	5382
Doute8	Discours sur la conduite et l'emprisonnement de Monsieur le Cardinal de Retz	20286
Retz1	Défense de l'ancienne et légitime Fronde	1569
Retz2	Avis désintéressé sur la conduite de Monseigneur le Coadjuteur	2133
Retz3	Les Contre-temps du sieur de Chavigny, premier ministre de Monsieur le Prince	1998
Retz4	Manifeste de Monseigneur le duc de Beaufort, général des armées de son Altesse Royale	740
Retz5	Le vrai et le faux de Monsieur le Prince et de Monsieur le cardinal de Retz	8198
Retz6	Intérêts du Temps	2195
Retz7	Le Vraisemblable sur la conduite de Monseigneur le cardinal de Retz	3218

2.3. 分析手順

CasualConc を用いて、全てのコーパスをクラスター分析および主成分分析にかけた。

クラスター分析は、異なるものが混ざりあっている集団の中から互いに似たものを集めてクラスターを作り、対象を分類する手法である。データの分類や分類の基準の発見、新しい仮説の検証などに幅広く使われ、レ枢機卿とテキストの関わりが多寡に関わらず一様に扱われているコーパス群を、分類するのに最適である。

主成分分析は、データの分散をより良く説明するという観点から、クラスター分析で得た大分類に対して、データの内部構造を明らかにするものであり、情報をより少ない次元に集約することでデータを視覚化できる。主成分分析 (PCA) は、多変量データを分析するための統計的手法の一つであり、データの相関関係を調べ、それを元にデータの次元を削減することで、データの構造を簡潔に表現することを目的としている。そのため、主成分分析はデータの可視化や、多変量データの解析、データ圧縮などに利用される。

クラスター分析は、データのグループを見つけるために、似た傾向や属性を持つデータをクラスターとしてまとめたためによく用いられる。一方、主成分分析は、元の多次元データの情報を縮約するために、最も重要な情報を持つ主成分を抽出することにより、次元を削減し複雑なデータの可視化や特徴の把握などに用いられる。

この二つの手法を用いることによって、クラスター分析でレ枢機卿の作品群に、単著のグループ、共著・共作のグループ、関連の少ないグループのまとまりを見つける。その後、主成分分析によって、クラスター分析によって発見されたグループの検証を行い、従来の先行研究による分類から大きく外れたテキストについて、個別に質的な検証を行う。

3. 分析と考察

本節では、前節で整理したコーパスについて、クラスター分析・主成分分析を行い、その結果を提示した上で考察を行う。

3.1. Retz4 を含めた分析

まずは、対象となるすべてのコーパスをクラスター分析にかけた（図 1）。

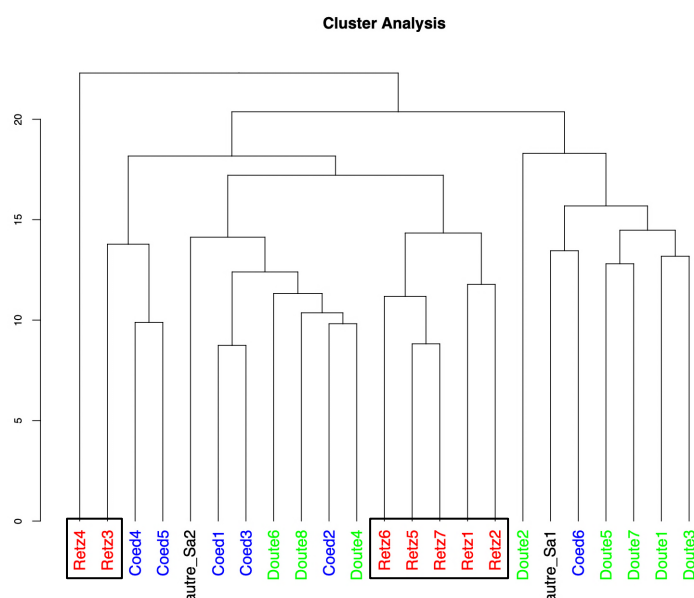


図 1 Retz4 を含めた場合のクラスター分析

結果を見ると、Ret3 及び Retz4 が他のレ枢機卿本人の作品群から離れた位置にあり、特に Retz4 に関しては他の作家 (autre_Sa1, autre_Sa2) よりもさらに文体的距離が隔絶していることがわかる。この結果はクラスター分析のみで見られるものではない。同じコーパスを主成分分析にかけた（図 2）。

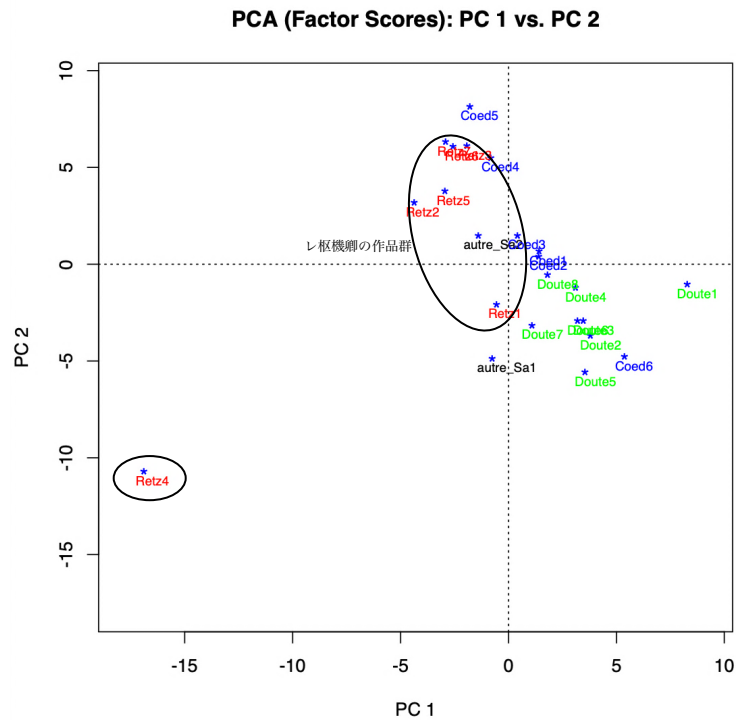


図 2 Retz4 を含めた場合の主成分分析

結果を見ると、Retz4 が他の作品群と比べて外れた位置にあり、この外れ値の存在によってレ枢機卿が書いた作品 (Retz 群) , 共著や共作と考えられる作品 (Coed 群) , 関連が示唆されるが疑わしい作品 (Doute 群) の差異が明示されない他に、明らかに作者の異なる作品 (autre_Sa2) がレ枢機卿の作品群の範囲に含まれてしまっている。

この結果は、マザリナードの分析においてクラスター分析と主成分分析が有用であることを同時に示す結果である¹⁴。というのも、レ枢機卿による第四のマザリナードである Retz4 は、レ枢機卿がボーフォール公の文体を模写して執筆したものであるからだ。他者の文体を模写したテキストであることに加えて、レ枢機卿が「彼の変な言葉遣い en son jargon」と形容した婉曲的で装飾に富んだ文体が、レ枢機卿やサラザンなどが用いた古典主義の先駆けと言われる簡潔かつ端正な文体と如何に異なるかということがこれら二つの分析手法で示すことが可能だということがわかる。

しかしここでは、明らかに外れ値である Retz4 によって、結果が煩雑になってしまっているた

¹⁴ 多変量解析においては Retz4 を Retz 群から離れ、autre 群とほぼ同じ距離である作品であるという結果を示していた。しかし Doute 群の一部の作品との比較が難しい結果を示したため、マザリナードの分析にあたってはクラスター分析と主成分分析を併用することが最も適していると判断した。

め、レ枢機卿の作品とされているテキスト群の帰属の量的再検証という本来の目的を考え、Retz4を外した22のテキストを再度、分析する(表3)。

表3 最適化したレ枢機卿のコーパス

年代順	タイトル	表記
1	Le Frondeur bien intentionné aux faux-Frondeurs	Autre_Sa1
2	Lettre d'un marguillier de Paris à son curé sur la conduite de Mgr le Coadjuteur	Autre_Sa2
3	Le Solitaire aux deux désintéressés	Coed1
4	Discours libre et véritable sur la conduite de Monsieur le Prince et Monseigneur le Coadjuteur	Coed2
5	Réponse du curé à la lettre du marguillier sur la conduite de Monseigneur le Coadjuteur	Coed3
6	Les intrigues de la Paix et les négociations faites à la cour par les amis de Monsieur le Prince depuis sa retraite ne Guyenne jusques à présent	Coed4
7	Suite véritable des Intrigues de la Paix et les négociations de Monsieur le Prince à la cour jusques à présent	Coed5
8	Avis aux malheureux	Coed6
9	La vérité reconnue ou les intrigues de Saint-Germain	Doute1
10	La déroute des cabalistes au jardin de Renard	Doute2
11	Apologie des Frondeurs	Doute3
12	Avis important et nécessaire à M. de Beaufort et à Monsieur le Coadjuteur	Doute4
13	Lettre de Monsieur le Prince de Conty écrite au Roi sur son voyage en Berry	Doute5
14	Manifeste de Monseigneur le Duc de Beaufort, par lequel il déclare se joindre à Son Altesse Royale, au Parlement et à la ville de Paris	Doute6
15	Remarques sommaires sur la maison des Gondy, par le sieur Hozier, gentilhomme ordinaire de la Maison du Roi, généalogiste de sa Majesté et juge général des armes et des blasons de France	Doute7
16	Discours sur la conduite et l'emprisonnement de Monsieur le Cardinal de Retz	Doute8
17	Défense de l'ancienne et légitime Fronde	Retz1
18	Avis désintéressé sur la conduite de Monseigneur le Coadjuteur	Retz2
19	Les Contre-temps du sieur de Chavigny, premier ministre de Monsieur le Prince	Retz3
20	Le vrai et le faux de Monsieur le Prince et de Monsieur le cardinal de Retz	Retz5
21	Intérêts du Temps	Retz6
22	Le Vraisemblable sur la conduite de Monseigneur le cardinal de Retz	Retz7

3.2. Retz4 を除いた分析

まずは対象となる上記の再検討したコーパスをクラスター分析にかけた(図3)。

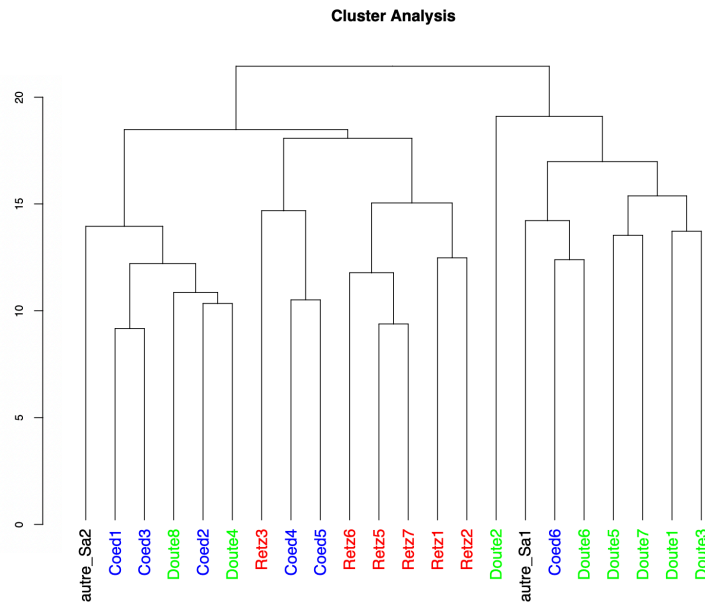


図3 Retz4を除いた場合のクラスター分析

結果を見ると明らかに大きく3つの群に別れていることが分かる。中央が Retz 群を中心としたグループである。このグループをさらに細かく、その枝分かれの様子を観察すると、クラスター分析による結果が論理構造や弁論の形態をよく反映していることが分かる。

アリストテレスは『弁論術』の中で弁論の形態を3つに大別しており、過去や未来の事象に対する議会での弁論を想定した審議的弁論、言動の正・不正を裁定する法廷的弁論、ある人物の言動の美醜や優劣に対する非難や賛美を想定した演説的弁論である。レ枢機卿のマザリナードとされる7編はこのうちの法廷的弁論と演説的弁論の特徴を持つが(表4)、その特徴をクラスター分析の結果が明示している点が興味深い。

表5 レ枢機卿によるマザリナードと弁論の型

表記	弁論の型	内容	構造など
Retz1	演説	レの賛美	一人称二人称が多
Retz2	演説	レの賛美	
Retz3	演説	シャヴィニ卿の非難	感嘆文が多い
Retz4	文体模写		
Retz5	法廷	レとコンデの比較	第三者による二者比較
Retz6	法廷	レとコンデの比較	第三者による二者比較
Retz7	法廷	レとコンデの比較	第三者による二者比較

Retz4を外したことで、帰属の量的再検証をするにあたってよりわかりやすく結果が見られるようになり、今後検討すべきテキストの優先順位がわかりやすくつけられた。

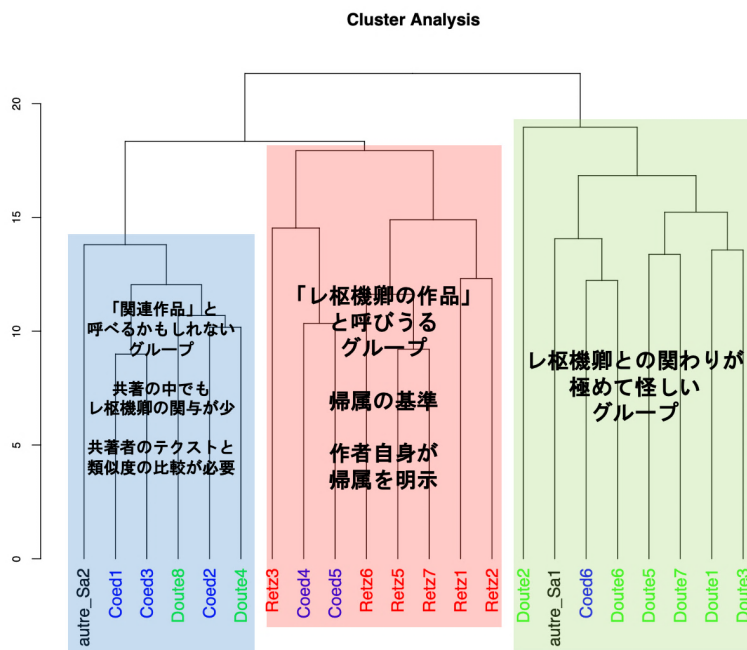


図4 帰属のグループと優先順位

研究者・編者の主観の影響を受けない新たな分類であり、全ての作品集・作品全集・書誌に掲載されているもの、複数で認められているものについて、概ね従来に沿う結果になった。一方で、主成分分析の結果と合わせてみると、これまで先行研究者や全集編者の分類と異なるいくつかの例外の発見することができる。

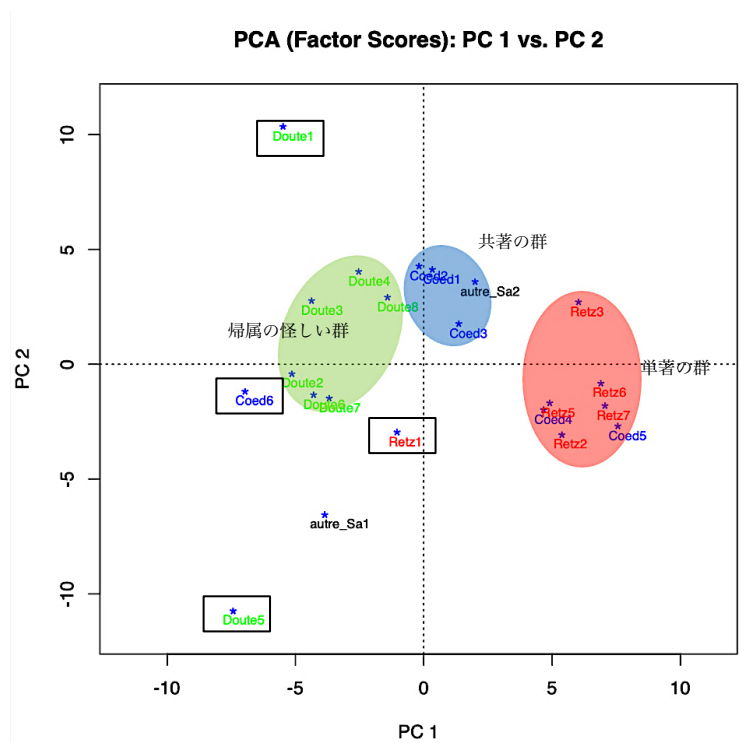


図5 主成分分析によるマザリナードの分類

そこで、Retz1, Coed6, Doute1, Doute5 を質的に検討し、本来属すべき群から外れている原因を探る。

3.3. 外れテキストの質的な再検討と評価

クラスター分析・主成分分析によって見えてきた外れテキストを質的に再検討し、レ枢機卿の作品として扱うべきか、評価を行う。

3.3.1. Retz1: *Défense de l'ancienne et légitime Fronde*

まず Retz の群でありながら一つ離れている Retz1 のテキストだが、このマザリナードはレ枢機卿の他のマザリナードと比べてどのような特徴があるのか、CasualConc の WordCount における LogLikelihood 比較を用いて、その比較を行った。

あるいは目的語“vous”あるいは二人称複数形の所有格“votre”が多く用いられ、一人称複数系も多く用いられていることがわかる。逆に、三人称単数あるいは非人称主語として用いられる“il”や“on”は、他のマザリナードに比べてあまり用いられていない。これは、“Vous”による政敵コンデ親王陣営への語りかけや二人称複数形“-ons”による民衆への語りかけが多いことによって、三人称単数が少なくなっていることによる。

Words	LL	頻度	相対頻度	割合
5 vous	79.22	31	19.758	1.98%
77 préfère	15.07	3	1.912	0.19%
43 votre	13.38	6	3.824	0.38%
18 nous	12.24	14	8.923	0.89%
64 propre	11.04	4	2.549	0.25%
64 tyrannie	11.04	4	2.549	0.25%
77 dessus	10.74	3	1.912	0.19%
77 légitime	10.74	3	1.912	0.19%
32 leur	10.33	10	6.373	0.64%
98 ancienne	10.04	2	1.275	0.13%
98 attaquez	10.04	2	1.275	0.13%
98 bienfaits	10.04	2	1.275	0.13%
98 brouillés	10.04	2	1.275	0.13%
98 cependant	10.04	2	1.275	0.13%
98 deviennent	10.04	2	1.275	0.13%
98 fauteurs	10.04	2	1.275	0.13%
98 fronde	10.04	2	1.275	0.13%
98 mazarins	10.04	2	1.275	0.13%
98 regarde	10.04	2	1.275	0.13%
98 temple	10.04	2	1.275	0.13%

Words	LL	頻度	相対頻度	割合
26 il	-27.12	12	7.648	0.76%
183 retz	-9.00	1	0.637	0.06%
7 le	-8.57	30	19.120	1.91%
43 cardinal	-6.44	6	3.824	0.38%
77 se	-6.27	3	1.912	0.19%
98 sur	-4.93	2	1.275	0.13%
77 m	-4.79	3	1.912	0.19%
32 on	-3.88	10	6.373	0.64%
35 d	-3.80	9	5.736	0.57%
15 qu	-3.70	16	10.198	1.02%
98 toutes	-3.08	2	1.275	0.13%
77 une	-2.91	3	1.912	0.19%
183 était	-2.89	1	0.637	0.06%
29 a	-2.68	11	7.011	0.70%
183 intérêts	-2.28	1	0.637	0.06%
16 dans	-2.06	15	9.560	0.96%
40 un	-2.05	7	4.461	0.45%
40 monsieur	-1.98	7	4.461	0.45%
183 assez	-1.93	1	0.637	0.06%
183 beaucoup	-1.82	1	0.637	0.06%

図6 Retz1 と Retz2,3,5,6,7 との使用単語比較

おそらく3.2で扱った弁論の型の違いの影響も含めた、使用語彙による違いと考えられ、レ枢機卿自身が『メモワール』でこのテキストの帰属を認めていることを上回る反論にはなり得ないため、従来通りレ枢機卿のテキストとして扱うのが良いと結論づける。

3.3.2. Coed6: *Avis aux malheureux*

レ枢機卿自身の言及あるいは先行研究者の指摘によって共著と考えられてきたが、極めて帰属が怪しいという結果が出た Coed6 について、論理構造や主張内容によってレ枢機卿の関連作品と呼びうるかどうか検討したい。

まず先行研究での扱いだが、Coed6 を関連作品に含めている全集編者のジャック・ドロンの根拠には、具体性がほとんどない¹⁵。ジャック・ドロンが根拠としているのは『マザリナード書誌¹⁶』という 19 世紀に編纂されたマザリナードを全てまとめたと思われるカタログである。

¹⁵ Cardinal de Retz, *Conjuration de Fiesque et Pamphlets*, op.cit., tome VII, p. 643-645.

¹⁶ Célestin Moreau, *Bibliographie des mazarinades*, tome I, Paris, la Société de l'histoire de France, 1850-1851.

BIBLIOGRAPHIE
DES
MAZARINADES

PUBLIÉE
POUR LA SOCIÉTÉ DE L'HISTOIRE DE FRANCE
PAR G. MOREAU
TOME PREMIER
A - F



A PARIS
CHEZ JULES RENOUARD ET C^{ie}
LIBRAIRES DE LA SOCIÉTÉ DE L'HISTOIRE DE FRANCE
RUE DE TOURNAI, N^o 6
M. DCCC. L.

Source gallica.bnf.fr / Bibliothèque nationale de France

図7 『マザリナード書誌』表紙と Coed6 に関する記述

カタログ編纂者セレスタン・モローは、『レ枢機卿に対するある不幸な人からの返答』という他の作品がこの作品をレ枢機卿の作としており、「これはおそらく理由がないわけではないだろう」ということでレ枢機卿の作品に数えている。何か作品それ自体の中に具体的な根拠があったわけではないにも関わらず、この評価をもとに、全集やマザリナードの国際研究グループ RIM(Recherches internationales sur les Mazarinades)は、この Coed6 をレ枢機卿の作品として掲載している。

この作品の内容を見てみると、レ枢機卿の作品と考えられる根拠は、状況証拠でしかない。つまり、執筆当時の政治的立ち位置（国王派・反コンデ派）とは一致するものの、レ枢機卿の作品と断定できず、同じ政治的立場の他人の可能性が拭えない。

また、テキストの中で特に異質に思われるのは、パリ市民の扱いである。パリ市民とは、パリ司教座の枢機卿であるレにとって支持母体であり、帰属が明らかな Retz1-7 では「私たち nous」という形で総体として扱い、連帯を示している。これに対して Coed6 ではレ枢機卿が使わない「君tu」という呼び方や命令形の多用が見られる。

さらに市民を分断する記述も見られ、第一・第二身分同様に政治変化に敏感な「大ブルジョワ gros bourgeois」「選ばれしもの élite」と今日明日の衣食住のみが興味の対象であり判断力に乏しく「哀れで不幸な民衆 pauvre malheureux peuple」と書かれている。レ枢機卿は、マザリナード以外の作品でも「民衆」支持の重要性を書いており、あえて「民衆」を分断する意義が見えない。

これらの理由から、Coed6 のテキストについて、量的にも質的にも、レ枢機卿の作品と呼ぶのは難しいのではないかと考えられる。

488. Avis aux malheureux. (S. l. n. d.), 7 pages.

De 1652, après le combat de la porte Saint-Antoine.

La Réponse d'un malheureux au cardinal de Retz, etc., attribue cette pièce au coadjuteur; et ce n'est peut-être pas sans raison. Au

moins, l'Avis est-il écrit avec une grande habileté et une grande vigueur.

On y a répondu, sous le nom de Scarron, par le Cœur des princes entre les mains de Dieu, etc.

3.3.3. Doute1: *La vérité reconnue ou les intrigues de Saint-Germain* 及び Doute5: *Lettre de Monsieur le Prince de Conty écrite au Roi sur son voyage en Berry*

この2編はそもそもレ枢機卿本人による言及がなく、先行研究者や作品集編者の中でも、その帰属がほとんど認められていない Doute の群の中で、特に Retz 群から外れているテキストである。つまり、コーパスの中でも特にレ枢機卿が制作に関わった可能性が低いテキストと言える。

Doute 1 については、マザリナード研究者ユベール・キャリエが著書において、レ枢機卿が参加していたフロンド党派が掲げていた戦略との類似していることを根拠に、起草にレ枢機卿が非常に大きな役割を果たしたことを示唆している。全集編者のジャック・ドロンは、この記述を根拠に Doute1 を掲載しているが、証拠となりうる、他の同時代人による言及は確認されていない。また、宰相マザランと宮廷を激しく非難する内容は、レ枢機卿自身が『メモワール』で言及している「コンデ親王陣営が自分を攻撃するパンフレを書いたことに對抗するため」というマザリナードの制作動機に一致しないことから、更なる調査が必要だが、現時点で帰属はかなり疑わしいと言わざるを得ない。

Doute5 について、こちらも全く他人の作品である *autre_Sa1* よりもさらに離れた位置にあるテキストである。この作品は Doute の中で唯一、政敵の名前を騙った作品であり、コンチ親王によるルイ 14 世への書簡の体裁をとり、外れ値として削除した Retz4 同様、文体模写の可能性のある作品である。レ枢機卿による文体模写なのか、政敵が書いたものなのかについては内容と背景を調べた上で慎重に検討する必要があるが、いずれにせよ、レ枢機卿の作品としてレトリックや道徳観を分析する、文学研究のコーパスと考えるのは厳しいことがわかる。

4. 終わりに

本研究では、クラスター分析・主成分分析を用いて、レ枢機卿のマザリナードコーパスについて、どの作品に帰属を認めるべきか、研究者・編者の主観の影響を受けない新たな分析結果を得た。全ての作品集・作品全集・書誌に掲載されているものや、複数で認められているものについては、概ね従来の帰属に沿う結果であったが、Retz1, Coed6, Doute1, Doute5 のテキストについてはこれまで先行研究者や全集編者の分類と異なる結果が出たため、それらを質的に再検証した。

今後は、主成分分析の結果に Coed1,2,3 に *autre_Sa2* が含まれているので、*autre* の比較対象の作家を変えたときにどう結果が変わるのかを観察した上で、Coed を中心に「レ枢機卿の作品」に含めるかどうかを検討する。また、コレスポネンス分析を用いて、今回外れ値として除いた Retz4 を Retz 群に含める指標を模索し、他のテキストがどのような位置を取るかを検証を進める必要があるだろう。将来的には、レ枢機卿の例から、デジタルヒューマニティーズによるマザリナードの帰属検証の方法を提示し、マザリナード全体の帰属問題に資する成果となるよう、進めていきたい。

文献

全集・作品集

- Cardinal de Retz, *Œuvres*, dans *Les Grands Écrivains de la France*, direction de M. Ad. Renier, Nouvelle édition. rev. sur les autographes et sur les plus anciennes impressions et augmentée, tome III(Mémoires) et V(Pamphlets), Paris, Hachette, 1875 et 1880.
- Cardinal de Retz, *Mémoires ; la conjuration du comte Jean-Louis de Fiesque, Pamphlets*, textes présentés et annotés par Maurice Allem et Edith Thomas, Paris, Gallimard, « Bibliothèque de la Pléiade », 1956.
- Cardinal de Retz, *Mémoires ; précédés de La conjuration du comte de Fiesque*, texte établi avec introd., chronologie, notes, par Simone Bertière, Paris, Garnier, 1987.
- Cardinal de Retz, *Mémoires*, Édition de Michel Pernot, Texte établi par Marie-Thérèse Hipp, Collection Folio classique (n° 3835), Paris, Gallimard, 2003.
- Cardinal de Retz, *Conjuration de Fiesque et Pamphlets*, textes établis, avec introduction, notes, bibliographie, index des noms de personnes, index des noms de lieux, reproduction de manuscrits, illustrations, par Jacques Delon, tome VII, Paris, Honoré Champion, 2011.
- Cardinal de Retz, *Mémoires*, textes établis avec introduction, notes, bibliographie, reproductions de manuscrits, illustrations, index des noms de personnes, index des noms de lieux, par Jacques Delon, tome VIII-IX, Paris, Honoré Champion, 2015.

研究書・その他

- Alcover, M. (2012). « Le *Cyrano de Bergerac* de Jacques Prévot », dans *Les Dossiers du Grihl* [En ligne], Les dossiers de Jean-Pierre Cavaillé, Libertinage, athéisme, irréligion. Essais et bibliographie.
- Bertière, Simone. (2000). *Bibliographie des Écrivain Français ; Le Cardinal de Retz ; Bibliographie thématique des littératures francophones européennes*, 20, Memini, Paris-Roma.
- Sarasin, J-F. (1926). *Oeuvres de J.-Fr. Sarasin*, rassemblées par Paul Festugière, Paris, É. Champion.
- Tsimbidy, M. (2005). *Le cardinal de Retz polémiste*, Université de Saint-Etienne, Renaissance et Age Classique.
- Tsimbidy, M. (2019). « Création et fabrications des *Œuvres complètes* du cardinal de Retz », dans *Éditer les œuvres complètes (XVIe et XVIIe siècles)*, sous la direction de Philippe Desan et Anne Régent-Susini, Classiques Garnier, p. 333-347.
- Viala, A. (1985). *Naissance de l'écrivain*, Paris, Éditions de Minuit, « Le sens commun ».
- Moreau, C. (1850) *Bibliographie des mazarinades*, tome I, Paris, la Société de l'histoire de France.
- アラン・ヴィアラ『作家の誕生』塩川徹也監訳, 藤原書店, 2005年
- クリスチアン・ジュオー『マザリナード』嶋中博章, 野呂康訳, 水声社, 2012年
- アリストテレス『弁論術』戸塚七郎訳, 岩波文庫, 1992年

参照サイト

- Bibliographie des Mazarinades sur Bibliothèque Mazarine (<https://mazarinades.bibliotheque-mazarine.fr/>)
- Bibliothèque municipale de Lyon (<https://catalogue.bm-lyon.fr/>)
- Gallica(<https://gallica.bnf.fr>)
- Recherches internationales sur les Mazarinades (<http://mazarinades.org>)